

令和元年9月発行

広尾っ子応援団だより (No.11)

広尾っ子応援団本部事務局（教育委員会社会教育課）電話 01558-2-0181



登下校時の子どもへの声掛けを!!…豊似小CS

このほど開かれた豊似小学校運営協議会で、「住民の方々に積極的に声掛けを行ってもらおう」ことで、子どもたちが地域の人とかかわり、安心して学校に通える環境をつくっていくことにしました。

これは本年度の重点教育目標を踏まえたもので、過去2回の熟議を経て、現状の中で実現可能な「地域・家庭の方策」として決定されたものです。

具体的には、町内会を通して子どもたちへの声掛けをお願いすることにしています。協議の中では「自分の子どもには通学途中の家の人に会ったら、挨拶するように言っている」という話があり、子どもと地域との良い関係が一層深まることが期待されます。

この他の取組として、「放課後の子どもの居場所づくり」と「学校農園を活用した地域住民と触れ合う体験活動」についても、今後、現在の教育資源の中で無理のない範囲で実現できるよう引き続き検討していくことになりました。



応援メッセージが届いています

だいぶ前の話になりますが、たまたま、大樹町のドラッグストアに入った時のことです。

店内で5～6人の地元の小学生グループと出会ったのですが、その中の1人が私に「こんにちは」と言ってくれたのです。すぐに、挨拶してくれたのは豊似小学校から大樹町に転校していった子どもだと気付きましたが、当然のように、事情を知らない他の小学生たちは驚いた様子でキョトンとしていました。

そんなに親しく接したことはなかったのですが、私を覚えてくれていたことが嬉しく、なにより、他の町に行ってもしっかりと挨拶している姿を誇らしく思いました。

豊似小学校の子どもたちが、日々、色々なことをしっかりと学んでいることが分かりました。

応援メッセージ

様々な人から認められ、励ましの言葉をかけられる経験を通して、子どもたちに自己肯定感をはぐくむとともに、広尾町を町民の温かな「まなざし」に包まれた、広尾っ子の心の居場所とすることを目指します。

70歳代 男性

豊似小の子どもには地力がある!!～CS熟議から

学校運営協議会では、学校から子どもたちの学力や学習等への意識に関する調査結果の情報提供があり、学校としての受け止め方について次のような説明がありました。

- ① 自己肯定感、教師からの認証意識は全国並だが、一部児童への配慮の必要性を感じる。
- ② 全児童が人の役に立つ人間になりたいと思っている。意識と努力の意識を縮めることが大事。
- ③ いじめは、どんな理由があっても許されないとの強い意識を持っている。
- ④ 教師への信頼感が高く、ほぼ全員が成功体験を有している。他への働きかけも行える。
- ⑤ 役に立つ人間になりたいとの意識の反面、地域や社会に対し何をすべきかを考えていない。
- ⑥ 学級において、話し合い活動における考えの深まりや広がりを感じないものの、よりよくするために互いの意見の良さを生かし合って解決方法を決めていると全員が感じている。
- ⑦ 国語や算数の勉強が好きな児童は多くないが、全員が大切だと感じている。

※学校の資料から抜粋しました。資料は広尾町公式WEBサイトに掲載しています。

その後、「豊似小の子どもたちの強み・弱み」というテーマで熟議を行いました。交流された意見は次のとおりです。

テーマ	視点	意見
強み	前進	★明るく元気★大きな夢をもっている★底力がある★地力があり目標が定まると大きな力を発揮する★少年団を頑張っている
	挨拶	★挨拶をよくしてくれる
	素直	★易しい・素直★素直★子どもらしい
	家庭・地域との関係	★大人への信頼、安心感があり大きく崩れない
弱み	表現力	★表現力に乏しい
	遊び	★外で遊ばない
	打たれ弱い	★打たれ弱い（同意見他1名）
	勉強	★勉強が嫌い、しない
	競争意識	★競争意識があまりない★刺激が少なくより多くの情報を受ける場面が少ない★将来の自己実現に向けまじめに勉強するが必死さは感じない

※前進、挨拶、素直などの「視点」を表す言葉はあらかじめ設けたものではなく、分類を振り返り、後から名付けたものです。